



「紙」の持つ視認性と電子データとしての利便性を併せ持った、ICT社会には欠かせない基幹技術、それが「PDF」です。

PDFは国際規格（ISO）で定められた世界標準のもと、紙と同等の、作者が作った形式と見やすさを保ちながら、電子文書としての優位性を備えた、これからの社会になくしてはならない技術です。

「紙」と同等の「PDF」

PDFは「Writer」（作成）と「Viewer」（表示／編集）が必要です。

作者が「Writer」によって作成したPDFを、「Viewer」がインストールされた端末機器で閲覧することで、紙の印刷のように、作者の意図した表現形式を常に忠実に再現できます（「視認性」「保存性」）。

「紙」を超える「PDF」

「Viewer」でPDFを表示すると、あたかも1枚の画像のように見えますが、PDFの中には、作者の表現形式を忠実に再現するための文字情報や画像のための描画情報、それらの配置情報等が含まれており、各種情報を正確に解析して画面上に再現しているのです。

「紙」ではできない拡大／縮小表示の際においても、表示サイズに応じて各種情報を解析し最適化することで、表現形式を忠実に再現しています。

こんなこともできる「PDF」

PDFの本来機能の活用によって業務革新をもたらします

例えば

各種データの入出力

PDF上に直接文字を入力したり、チェックボックスやラジオボタン、リストダウンメニューで該当項目を選択するといったこともできます。入力（選択）されたデータはPDF内に格納され、後処理でデータを出力して、集計や分析といった二次利用が可能です。



例えば

様々な形式の情報を格納

PDFは、その中に音声、動画、テキスト、画像、その他形式の文書等様々なデータを格納し、一緒に管理することが可能です。



例えば

改ざん防止、長期保存

PDFが作成された当時のままであることを保証する仕組みとして、電子署名やタイムスタンプをPDFに格納でき、この仕組みを利用することで、改ざん検知、真正性の証明が可能です。

